

国公立大学・高専・大学共同利用機関

教員の研究・教育・勤務 条件改善に関する アンケート まとめ

2017.3

全大教教員部では、2008年、2012年、2016年に国公立大学・高専・大学共同利用機関の「教員の研究・教育・勤務条件改善に関するアンケート」（以下、教員アンケート）を実施しました。

このアンケートではできるだけ設問を変えないようにして、教員をめぐる状況の変化を明らかにしようとしています。

本報告では、これまで実施しました3回のアンケート結果のまとめを報告します。

実施
期間

2008年
5月～11月

2012年
5月～11月

2016年
4月～8月

集計
総数

5660人
64大学、
2共同利用機関

4267人
51大学、16高専、
2共同利用機関

2043人
67大学、20高専、
2共同利用機関

アンケート実施方法

〈2008年、2012年〉

全大教加盟単組にアンケート用紙を配布。単組を通じて回収。組合員以外も対象。

〈2016年〉

全大教加盟単組にアンケートを行う旨を書いたチラシを単組を通じて配布してもらう。組合員以外も対象。アンケート自体はWebで回答。

目次

設問1 あなたの年齢、性別、職名、領域などを教えてください。(3回共通)

Q1-1 年齢	P. 1
Q1-2 性別	P. 1
Q1-3 所属	P. 1
Q1-4 職種 (2016年アンケートでは所属機関名を聞く設問があったので Q1-5)	P. 2
Q1-5 任期の有無	P. 2
Q1-6 分野	P. 2

設問2 研究・教育費についてお尋ねします。(3回共通)

Q2-1 過去4年間の校費の変化	P. 3
Q2-2 校費金額	P. 3
Q2-3 獲得した年間研究教育費	P. 3
Q2-4 研究教育費の変化の受け止め	P. 4
Q2-5 年間必要な研究教育費	P. 4

設問3 担当する授業についてお尋ねします。(3回共通)

Q3-1 担当コマ数(週あたり)	P. 5
Q3-2 100人を超える大講義の数	P. 5
Q3-3 研究室で指導している学生の数	P. 6
Q3-4 授業負担の変化(2008年では Q3-3)	P. 6

設問4 学内業務・社会貢献活動についてお尋ねします。(3回共通)

Q4-1 負担感の変化	P. 7
Q4-2 実務・学外分担の公平感(複数回答可)	P. 7

設問6 教員の身分保障・健康についてお尋ねします。(3回共通)

Q6-1 身分についてもっとも切実な問題	P. 8
Q6-2 メンタルヘルス(複数回答可)	P. 8

設問7 特に問題と感じられていることについてお尋ねします。(3回共通)

各回個別の設問に対する回答のまとめ

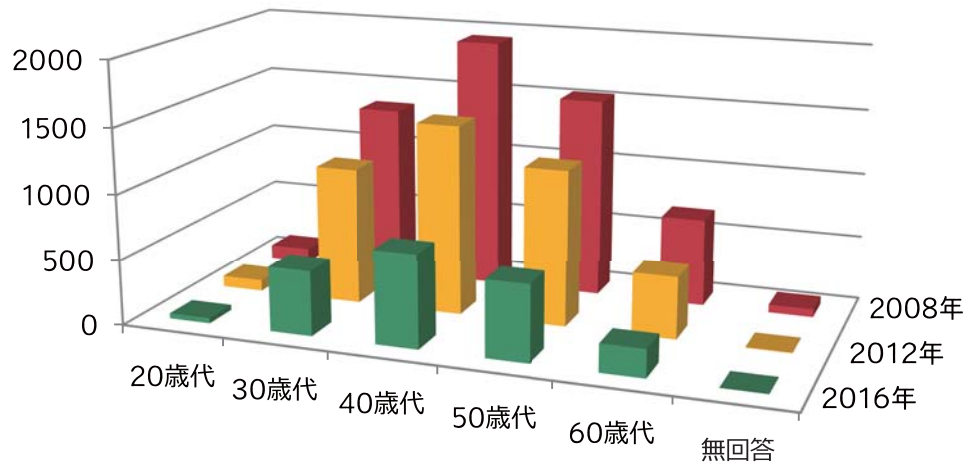
I. 週休・土日出勤に関すること	P.10
■休暇についてお尋ねします 2008年設問5	P.10
Q5-1 2008 週休(土日のみ)取得状況	P.10
Q5-2 2008 週休が取得できない理由	P.10
Q5-1 2012 年間の土日勤務数	P.10
Q5-2 2012 土日勤務に対して	P.10

II. サバティカルリープについて

■サバティカルリープ(研究専念休暇)についてのお考えをお尋ねします 2008年設問6	P.11
■サバティカルリープ(研究専念休暇)についてお尋ねします 2016年設問5	P.11
Q5-1 2016 サバティカルリープの有無	P.11
Q5-2 2016 給与・研究費保証	P.11
Q5-3 2016 実際取ることは	P.11

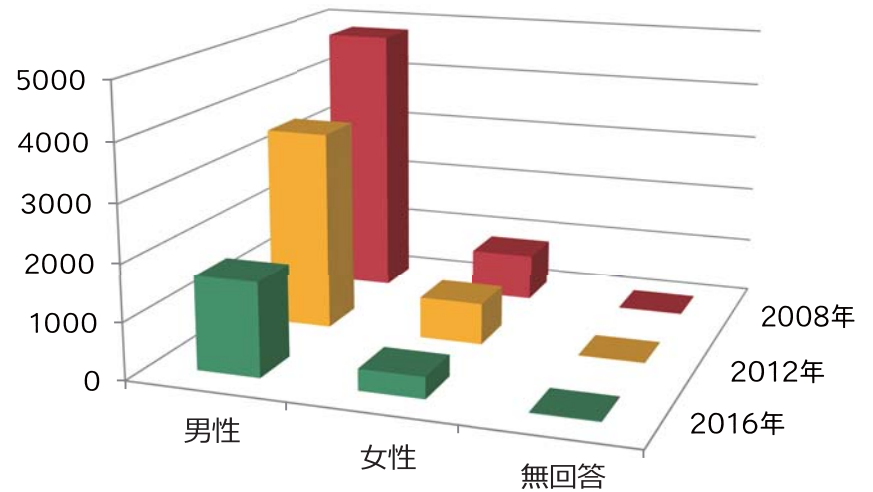
Q1-1 年齢

	2008年	2012年	2016年
20歳代	110	86	40
30歳代	1340	1053	496
40歳代	1936	1458	709
50歳代	1537	1191	582
60歳代	676	474	213
無回答	61	5	3



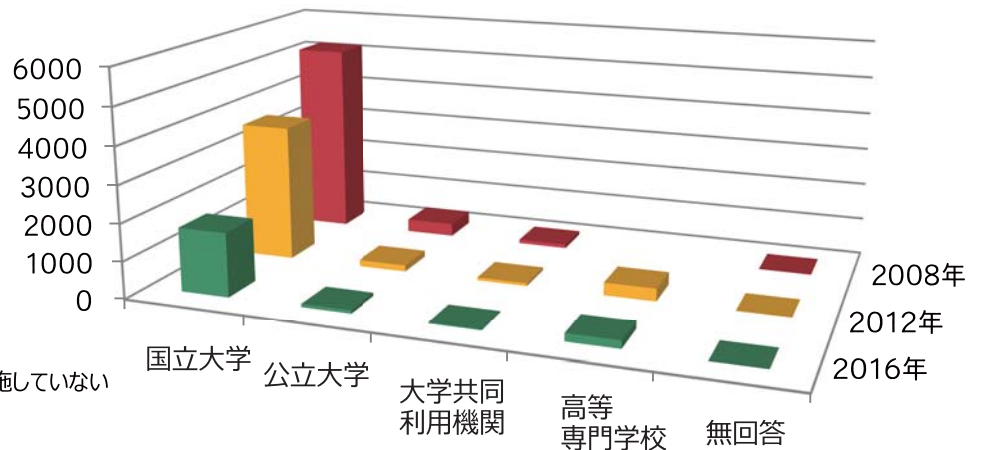
Q1-2 性別

	2008年	2012年	2016年
男性	4813	3527	1653
女性	836	732	375
無回答	11	8	15



Q1-3 所属

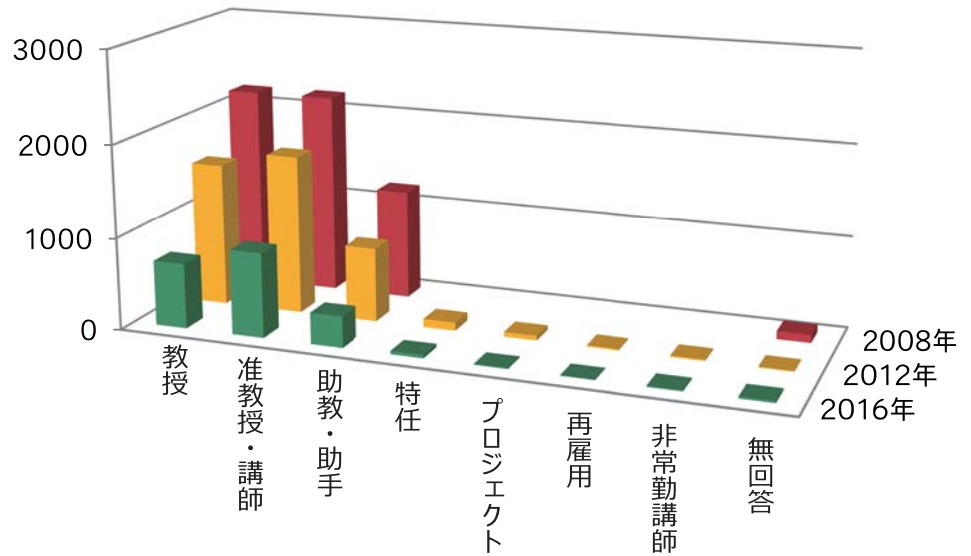
	2008年	2012年	2016年
国立大学	5199	3670	1717
公立大学	349	169	89
大学共同 利用機関	99	77	27
高等専門 学校		343	210
無回答	13	8	0



注) 2008年アンケートは高等専門学校には実施していない

Q1-4 職種 (2016年アンケートでは所属機関名を聞く設問があったので Q1-5)

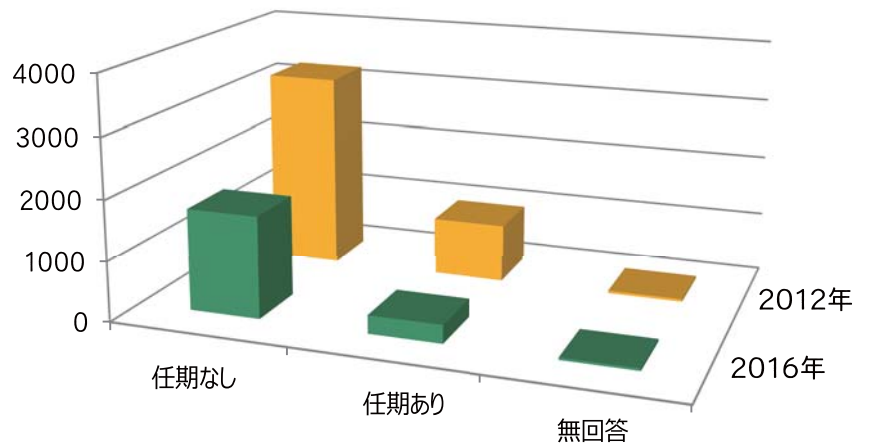
	2008年	2012年	2016年
教授	2186	1558	704
准教授・講師	2189	1729	915
助教・助手	1197	802	339
特任		89	35
プロジェクト		50	11
再雇用		15	3
非常勤講師		15	14
無回答	88	9	22



注) 2008年は教授、准教授、講師、助教、助手の5つから選択してもらったがここでは2012年以降の項目に合わせた。

Q1-5 任期の有無

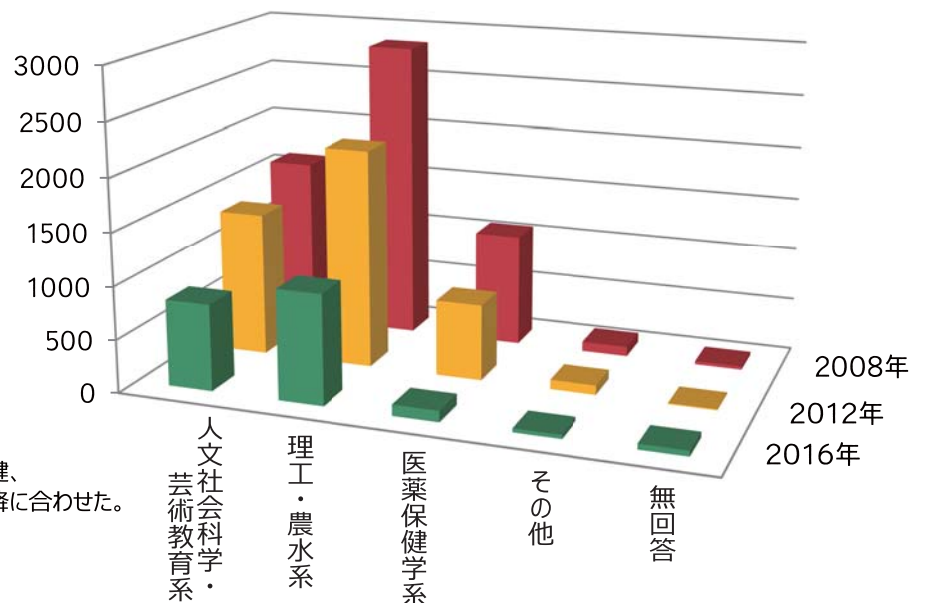
	2012年	2016年
任期なし	3252	1700
任期あり	973	303
無回答	42	40



注) この設問は2008年アンケートにはない

Q1-6 分野

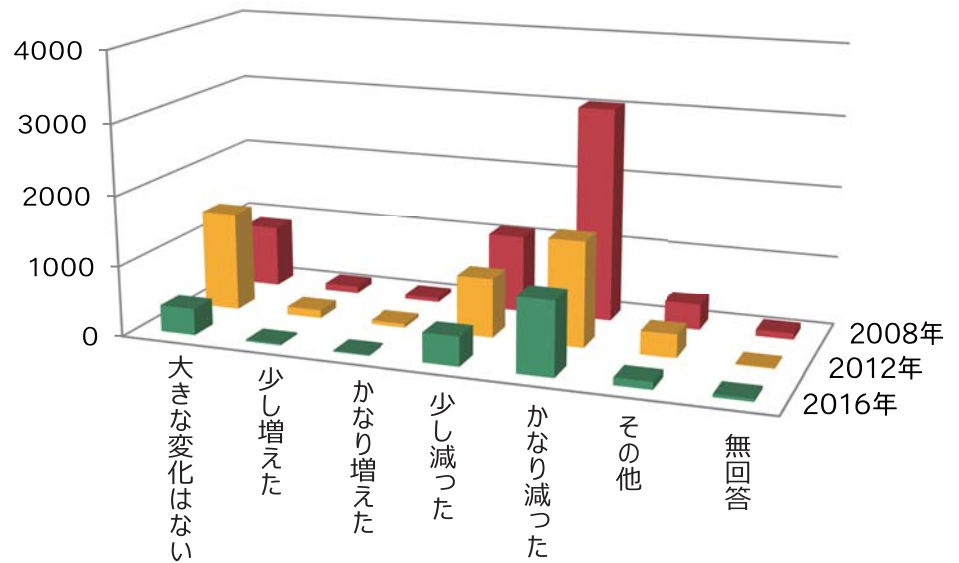
	2008年	2012年	2016年
人文社会科学・芸術教育系	1616	1370	815
理工・農水系	2847	2079	1035
医療保健学系	1076	718	105
その他	91	89	36
無回答	30	11	52



注) 2008年には人文社会、理工・農水、医療保健、芸術体育、その他の5項目だったが2012年以降に合わせた。

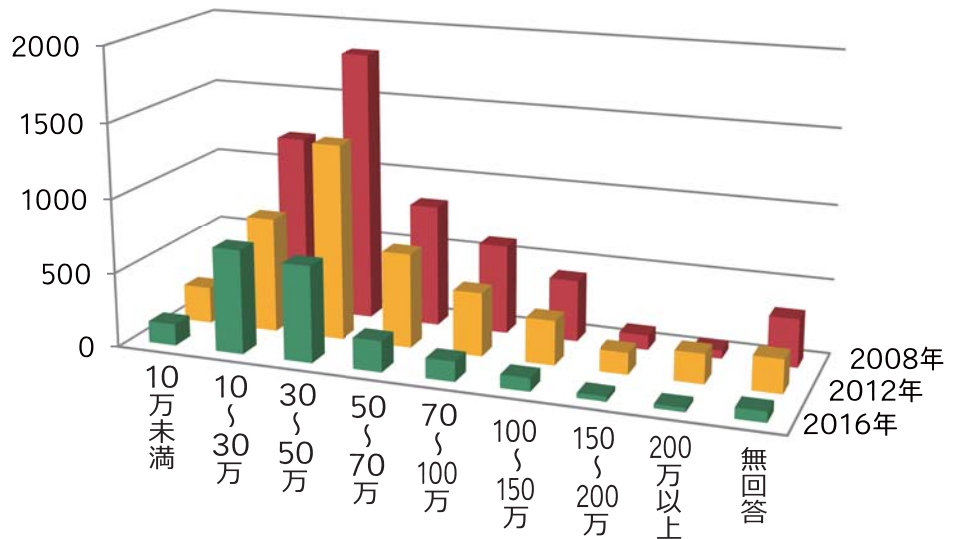
Q2-1 過去 4 年間の校費の変化

	2008年	2012年	2016年
大きな変化はない	889	1418	379
少し増えた	98	115	25
かなり増えた	57	54	18
少し減った	1103	838	418
かなり減った	3053	1495	1055
その他	370	333	107
無回答	90	14	41



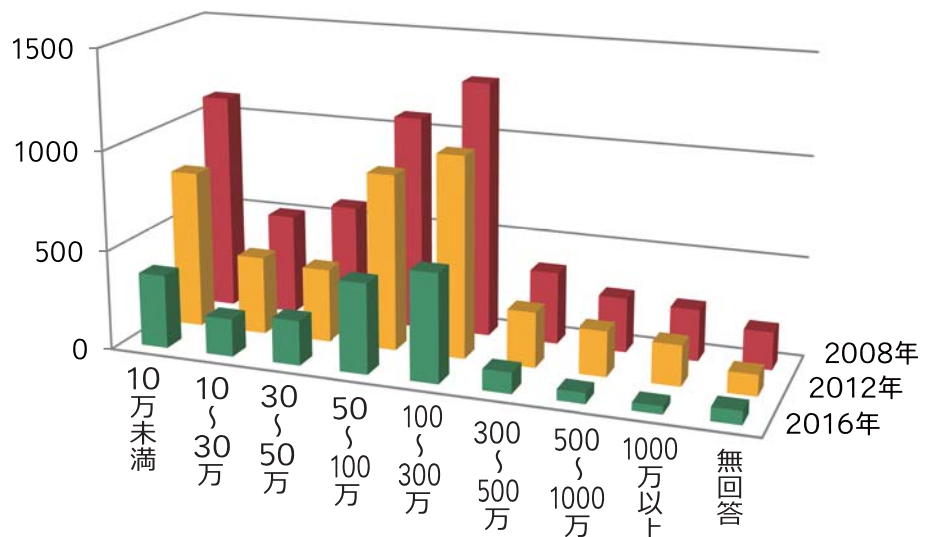
Q2-2 校費金額

	2008年	2012年	2016年
10万未満	316	245	144
10～30万	1209	777	698
30～50万	1823	1320	645
50～70万	826	633	207
70～100万	599	425	133
100～150万	413	297	87
150～200万	97	145	32
200万以上	55	199	27
無回答	322	226	70



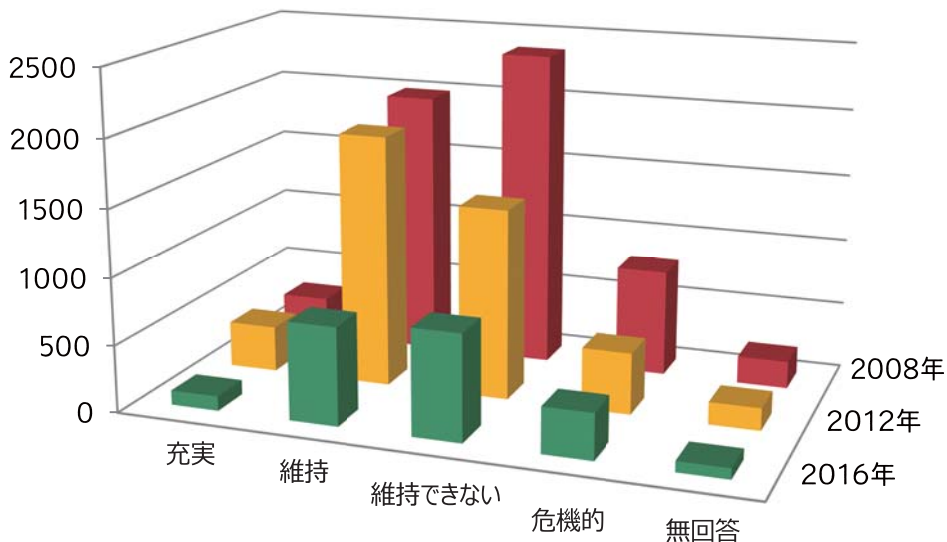
Q2-3 獲得した年間研究教育費

	2008年	2012年	2016年
10万未満	1105	795	370
10～30万	508	393	190
30～50万	590	369	224
50～100万	1084	885	452
100～300万	1288	1012	542
300～500万	364	277	105
500～1000万	274	227	54
1000万以上	258	203	39
無回答	189	106	67



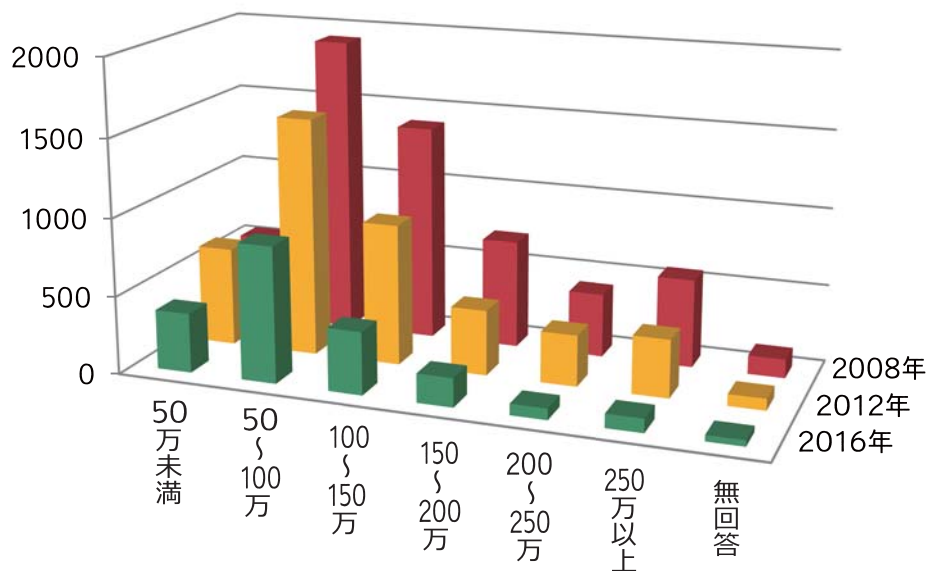
Q2-4 研究教育費の変化の受け止め

	2008年	2012年	2016年
充実	296	341	108
維持	1993	1883	728
維持できない	2372	1421	788
危機的	796	456	340
無回答	203	166	79



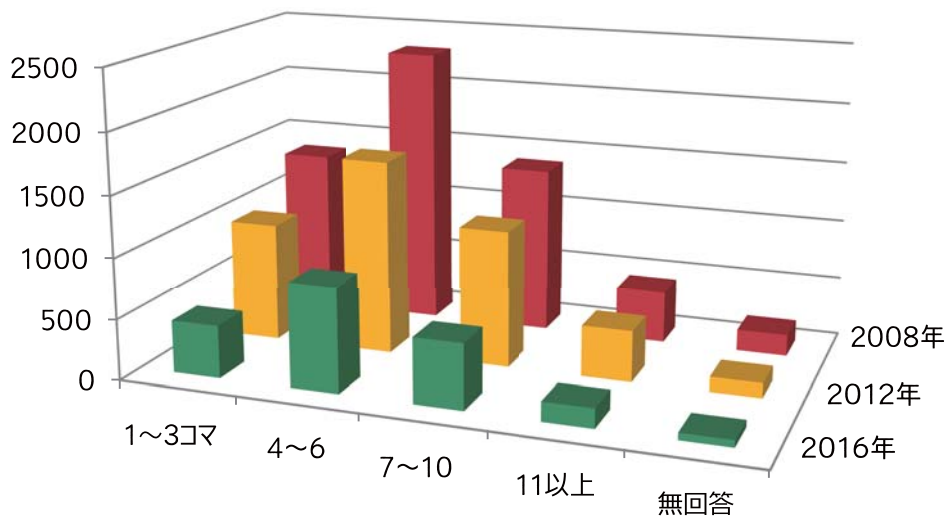
Q2-5 年間必要な研究教育費

	2008年	2012年	2016年
50万未満	551	634	383
50～100万	1920	1534	874
100～150万	1394	906	401
150～200万	696	419	185
200～250万	410	328	72
250万以上	568	371	89
無回答	121	75	39



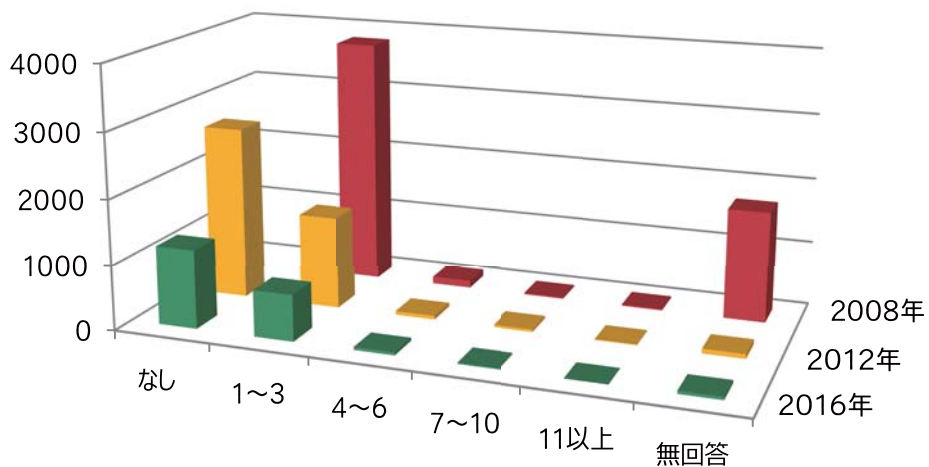
Q3-1 担当コマ数 (週あたり)

	2008年	2012年	2016年
1~3コマ	1351	987	432
4~6	2315	1609	859
7~10	1387	1127	534
11以上	431	420	160
無回答	176	124	58



Q3-2 100人を超える大講義の数

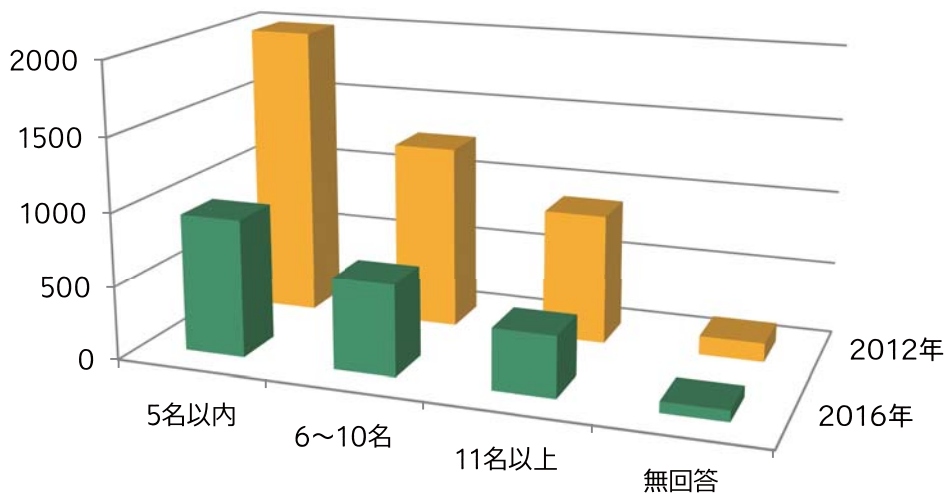
	2008年	2012年	2016年
なし		2669	1217
1~3	3798	1421	711
4~6	108	56	45
7~10	24	38	20
11以上	21	12	5
無回答	1709	71	45



注) 2008年には「なし」という選択肢がなかった。

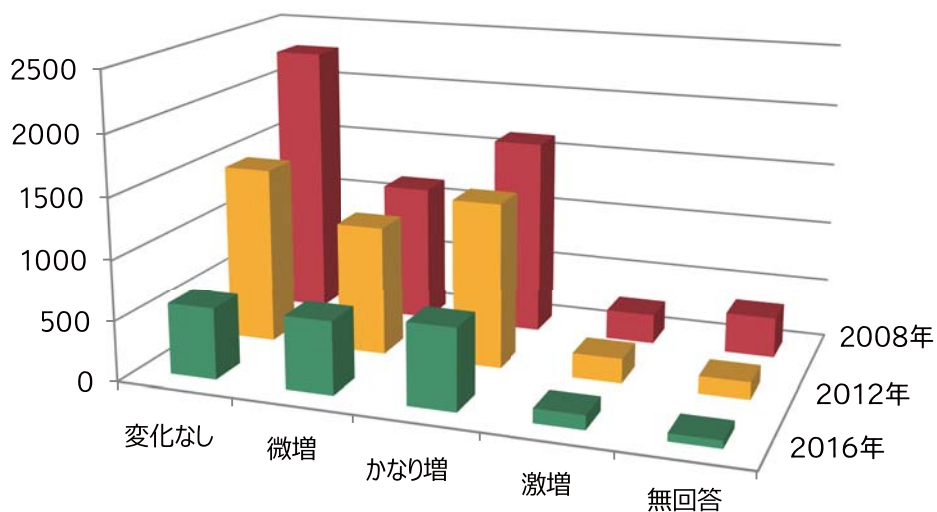
Q3-3 研究室で指導している学生の数

	2012年	2016年
5名以内	1994	940
6~10名	1258	619
11名以上	888	409
無回答	127	75



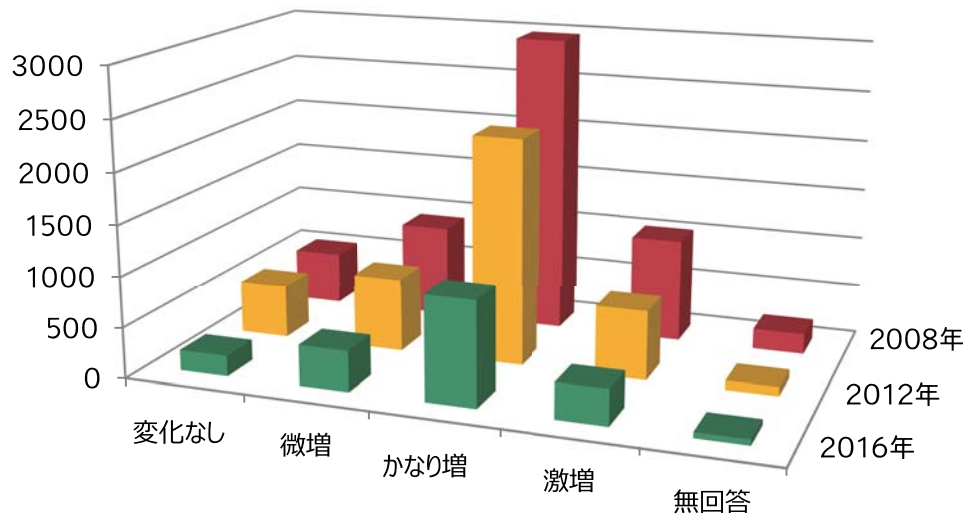
Q3-4 授業負担の変化 (2008年では Q3-3)

	2008年	2012年	2016年
変化なし	2284	1474	592
微増	1159	1078	601
かなり増	1637	1371	668
激増	246	203	118
無回答	334	141	64



Q4-1 負担感の変化

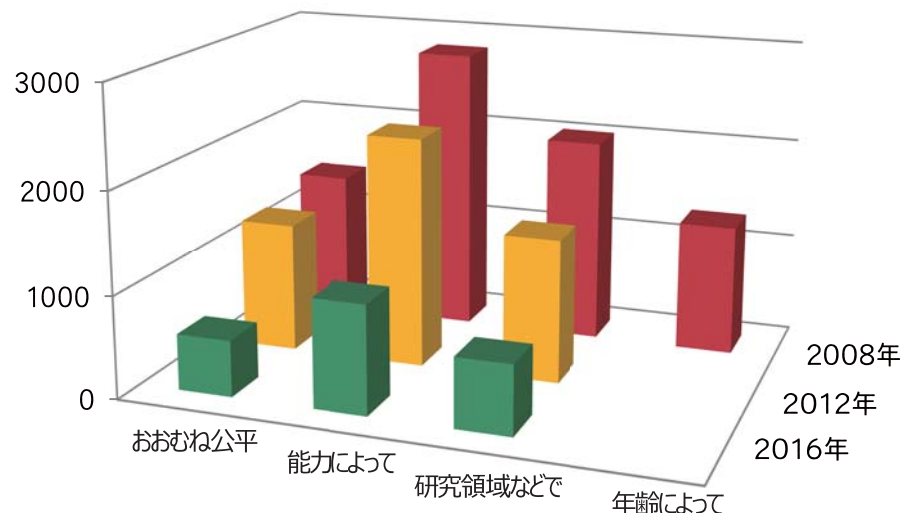
	2008年	2012年	2016年
変化なし	527	530	203
微増	929	727	402
かなり増	2974	2236	1027
激増	1029	681	354
無回答	201	93	57



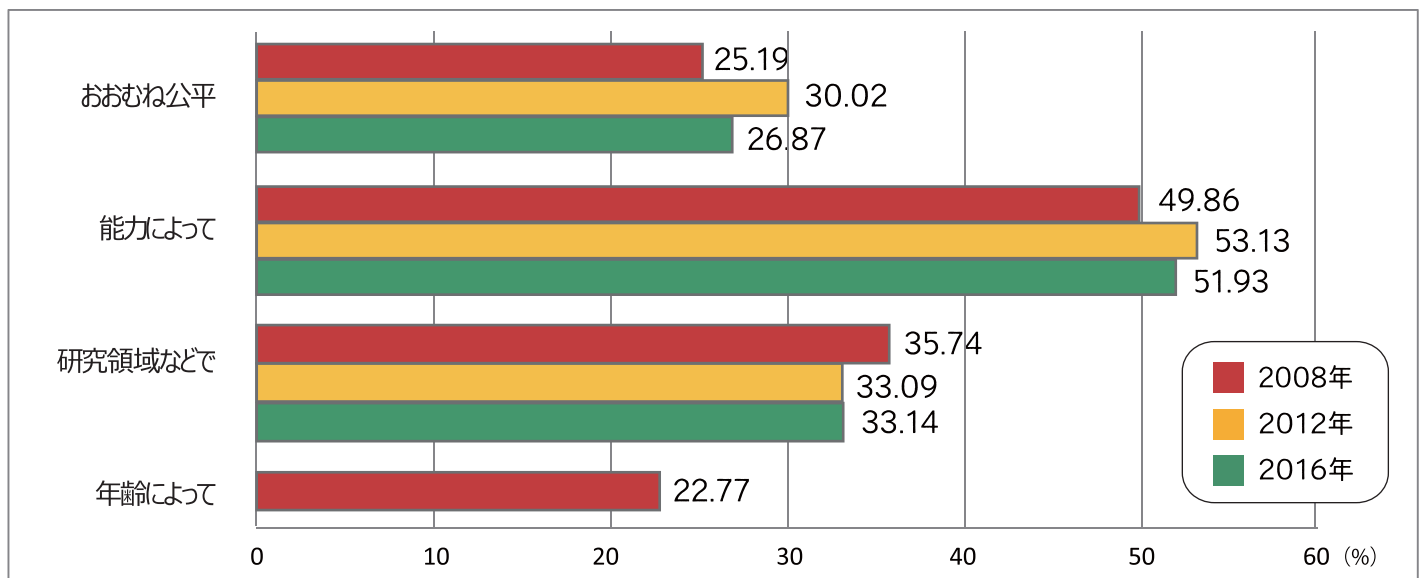
Q4-2 実務・学外分担の公平感 (複数回答可)

	2008年	2012年	2016年
おおむね公平	1426	1281	549
能力によって	2822	2267	1061
研究領域などで	2023	1412	677
年齢によって	1289		

注) 「年齢によって…」の選択肢は2008年にのみ存在。



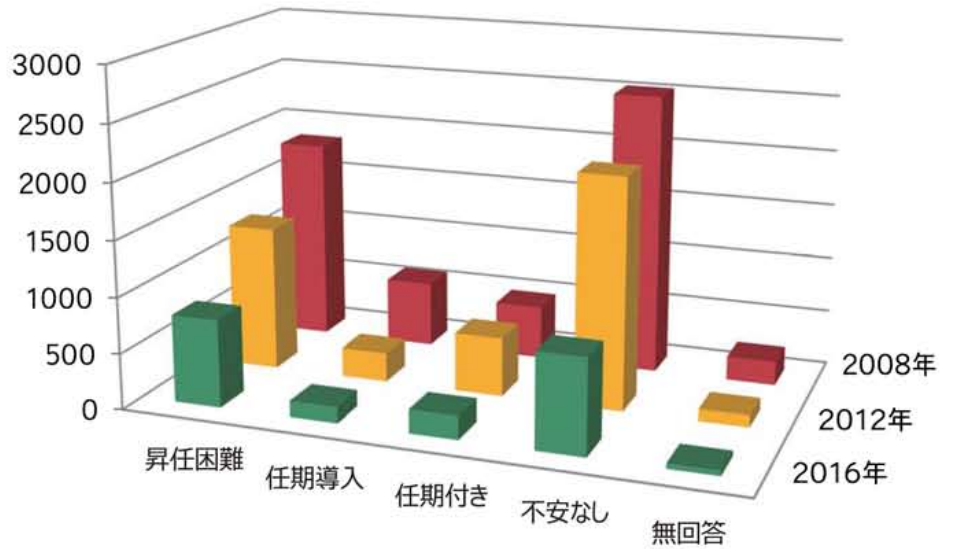
↓ 全体に対するパーセンテージ



Q6-1 身分についてもっとも切実な問題

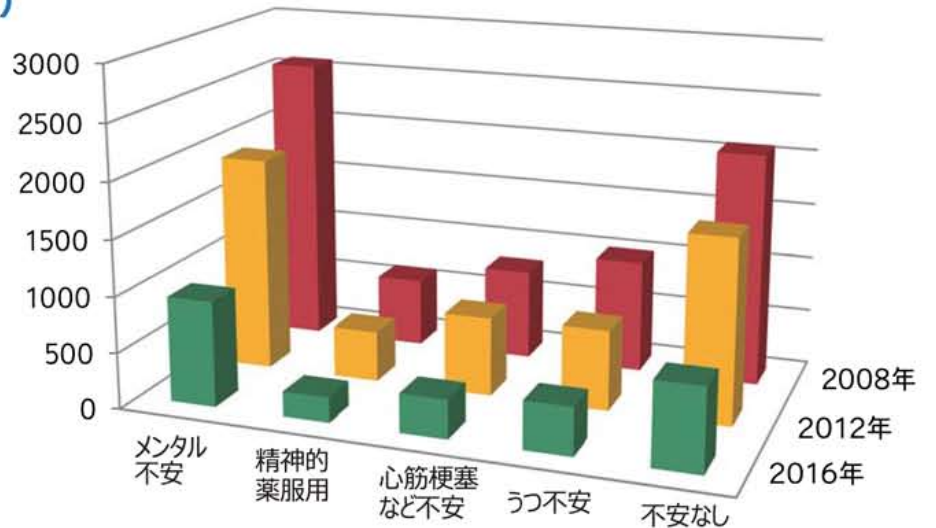
	2008年	2012年	2016年
昇任困難	1834	1299	787
任期導入	593	263	147
任期付き	483	530	213
不安なし	2533	2065	849
無回答	217	110	47

注) 2008年では設問7。

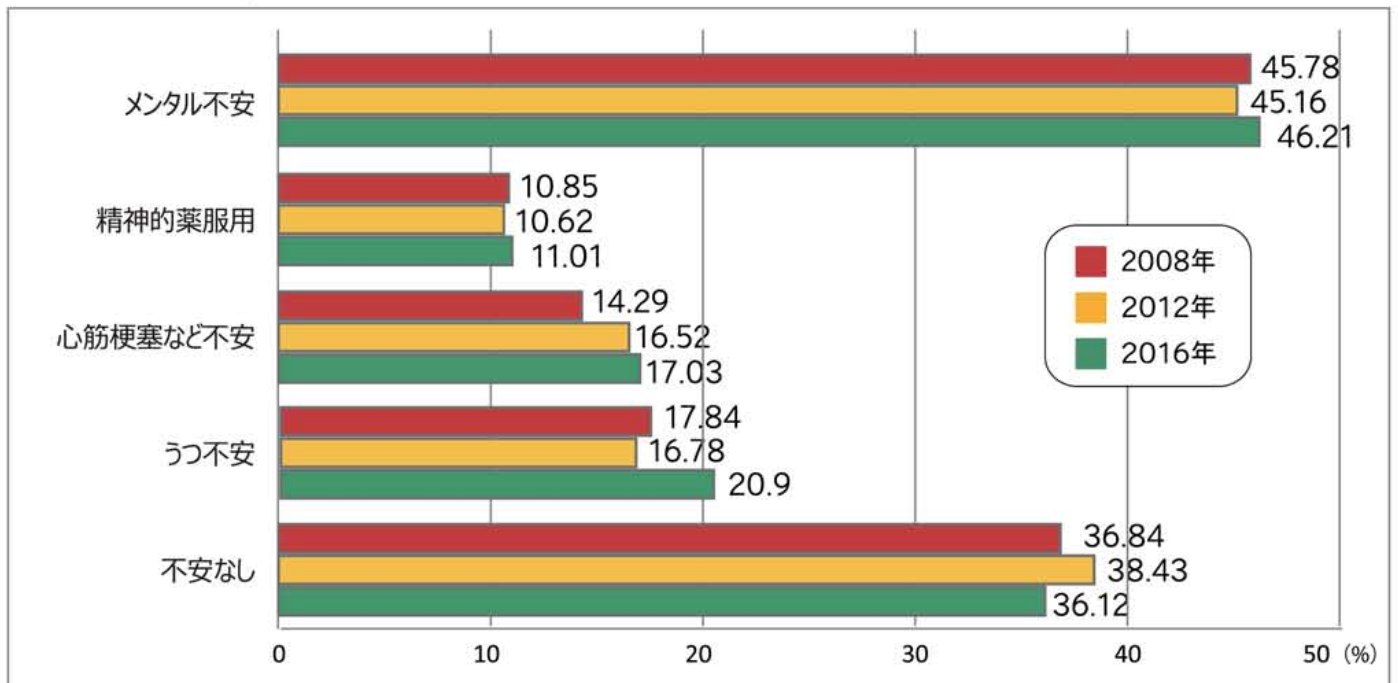


Q6-2 メンタルヘルス (複数回答可)

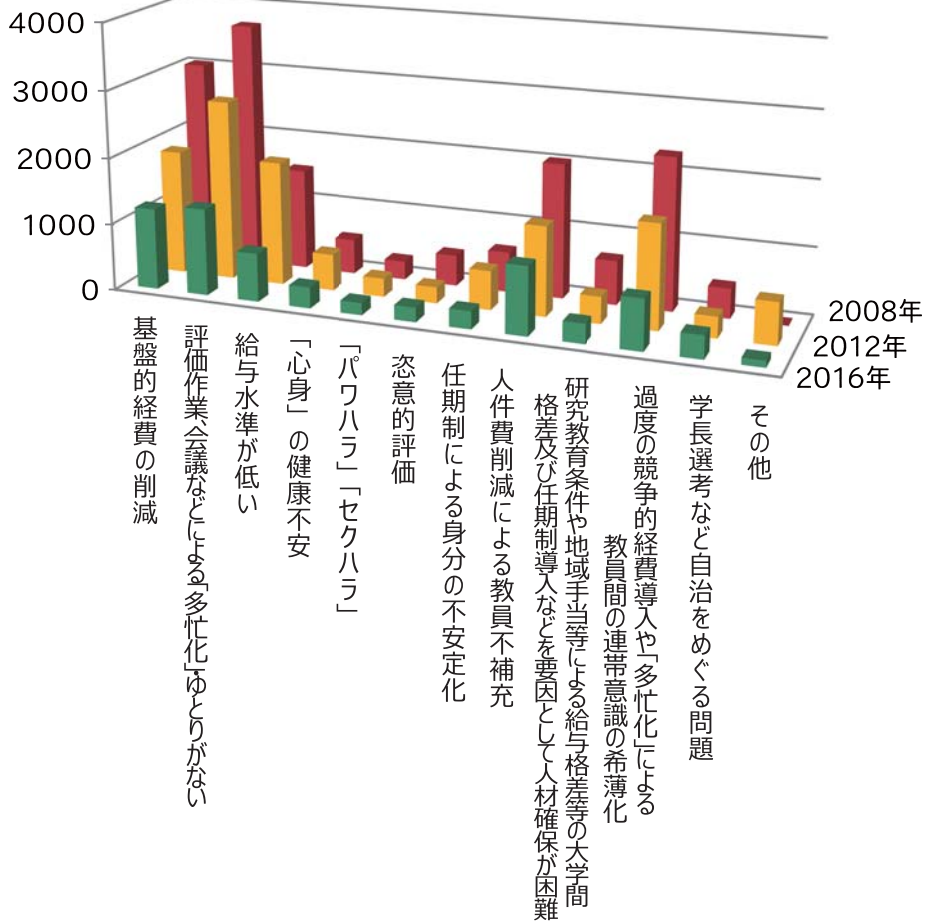
	2008年	2012年	2016年
メンタル不安	2591	1927	944
精神的薬服用	614	453	225
心筋梗塞など不安	809	705	348
うつ不安	1010	716	427
不安なし	2085	1640	738



↓ 全体に対するパーセンテージ



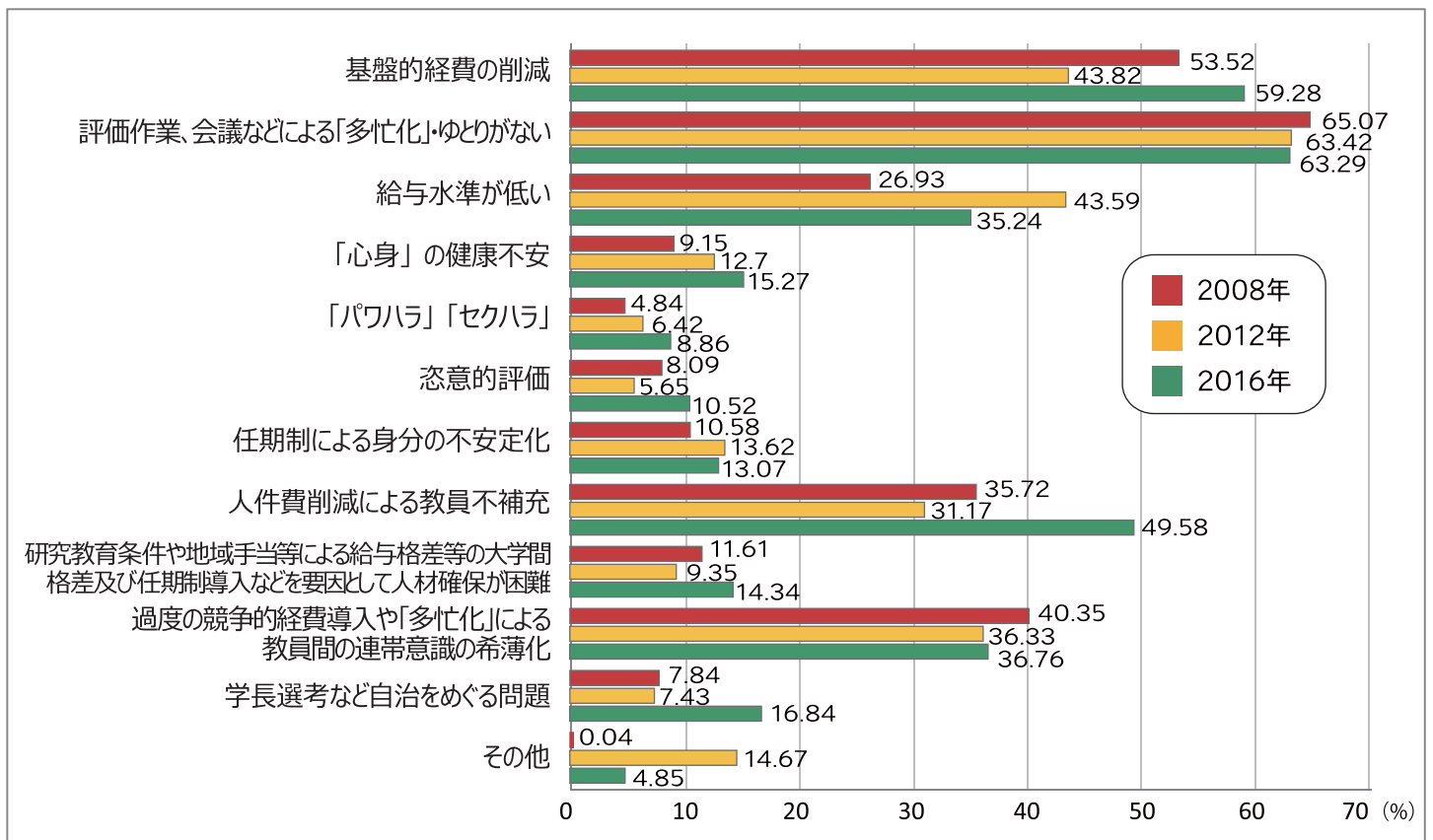
	2008年	2012年	2016年
基盤的経費の削減	3029	1870	1211
評価作業、会議等による「多忙化」・ゆとりがない	3683	2706	1293
給与水準が低い	1524	1860	720
「心身」の健康不安	518	542	312
「パワハラ」「セクハラ」	274	274	181
恣意的評価	458	241	215
任期制による身分の不安定化	599	581	267
人件費削減による教員不補充	2022	1330	1013
研究教育条件や地域手当等による給与格差等の大学間格差及び任期制導入等を要因として人材確保が困難	657	399	293
過度の競争的経費導入や「多忙化」による教員間の連帯意識の希薄化	2284	1550	751
学長選考など自治をめぐる問題	444	317	344
その他	2	626	99



注) 3項目までを選べとの指示だが、3項目を超えて選んでいても集計している。



全体に対するパーセンテージ

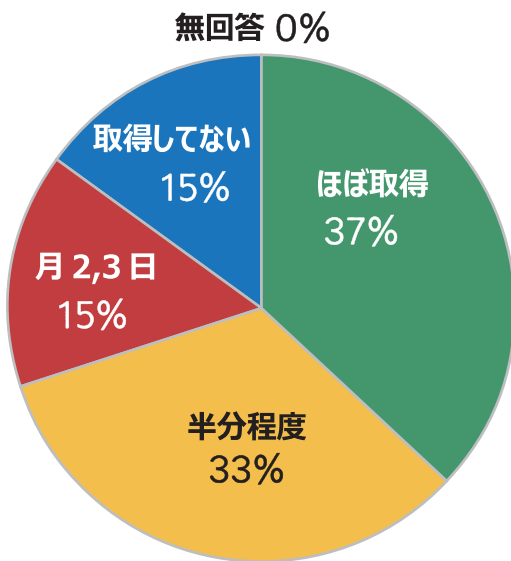


I. 週休・土日出勤に関すること

■ 休暇についてお尋ねします 2008年設問 5

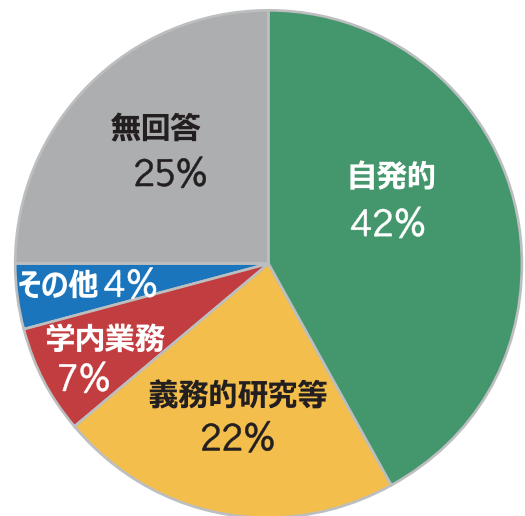
Q5-1 週休（土日のみ）取得状況 2008

	ほぼ取得	半分程度	月 2,3 日	取得して ない	無回答
2008年	2084	1886	832	837	21



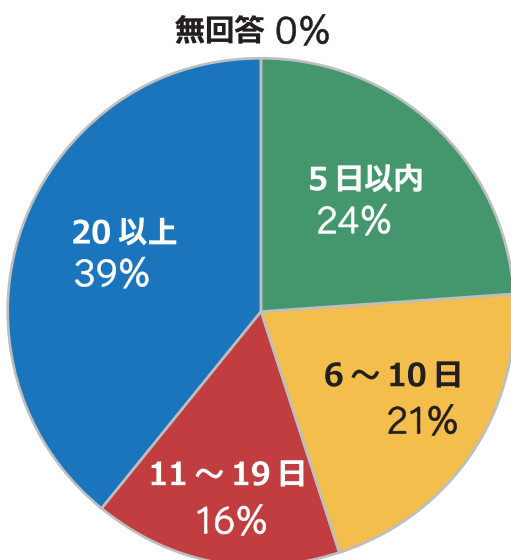
Q5-2 週休が取得できない理由 2008

	自発的	義務的 研究等	学内実務	その他	無回答
2008年	2380	1250	389	250	1391



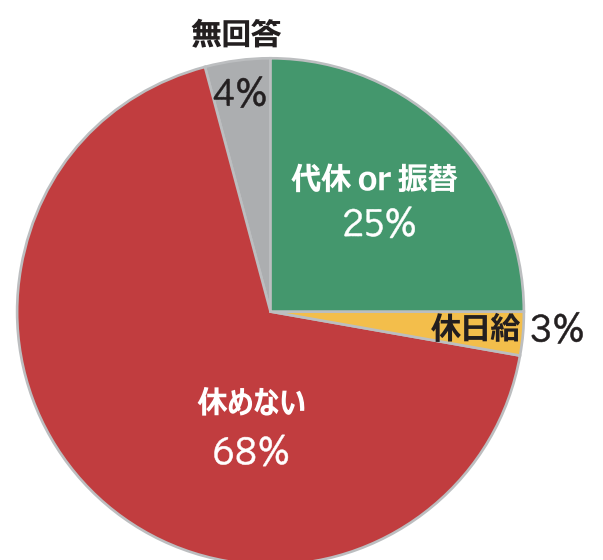
Q5-5-1 年間の土日勤務数 2012

	5日以内	6~ 10日	11~ 19日	20日 以上	無回答
2012年	1048	883	667	1651	18



Q5-5-2 土日勤務に対して 2012

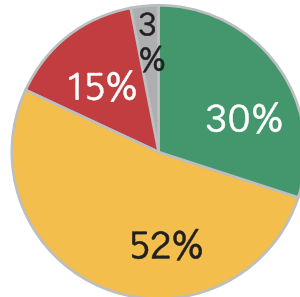
	代休 or 振替	休日給	休めない	無回答
2012年	1057	130	2920	160



II. サバティカルリープについて

■ サバティカルリープ（研究専念休暇）についてお考えをお尋ねします 2008年設問 6

	2008年
給与減額でも	1687
給与保障なら	2974
取りたくない	825
無回答	174

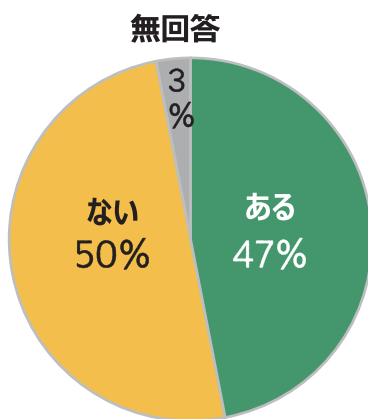


- 給与減額でも
- 給与保障なら
- 取りたくない
- 無回答

■ サバティカルリープ（研究専念休暇）についてお尋ねします 2016年設問 5

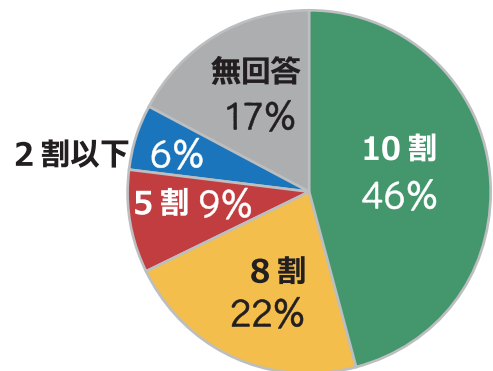
Q5-5-1 サバティカルリープの有無 2016

	ある	ない	無回答
2016年	957	1025	61



Q5-5-2 給与・研究費保証 2016

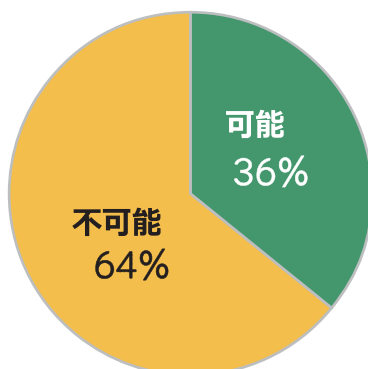
	10割	8割	5割	2割以下	無回答
2016年	445	206	91	53	162



注) Q2016-5-1であると答えた人対象の質問。母集団をQ2016-5-1の「あり」の人の数にしているが、実際には「ない」でも答えている人がいた。ここではそのクロスは取っていない。

Q5-5-3 実際に取ることは 2016

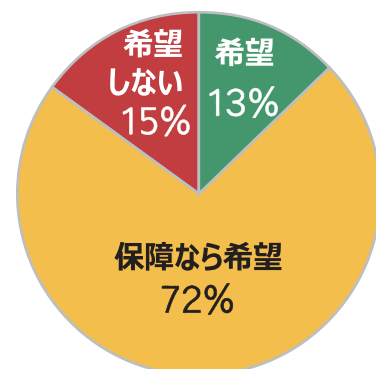
	可能	不可能	無回答
2016年	351	622	-16



注) Q2016-5-1であると答えた人対象の質問。母集団をQ2016-5-1の「あり」の人の数にしているが、実際には「ない」でも答えている人がいた。ここではそのクロスは取っていないので無回答がマイナスになっている。グラフは無回答を除いた。

Q5-5-4 希望するか? 2016

	希望	保証なら希望	希望しない	無回答
2016年	183	998	208	



注) Q2016-5-1であると答えた人対象の質問。母集団をQ2016-5-1の「ない」の人の数にしているが、実際には「あり」でも答えている人がいた。ここではそのクロスは取っていないので無回答がマイナスになっている。グラフは無回答を除いた。

